

## 善光寺地震における稲荷山宿火災

田中哮義

### 1. はじめに

弘化4年(1847)に起きた善光寺地震により、善光寺周辺は家屋の倒壊および引き続いて発生した火災により多くの被害を受けたことは良く知られている。しかし善光寺から少し離れて位置する稲荷山宿でも地震出火があり、市街をほぼ全焼したことはあまり知られていない。その被害状況に関して北原糸子氏により提供された資料を基に、その当時の稲荷山宿の様子、そして火災延焼状況の再現を試みた。

### 2. 善光寺地震の概要

善光寺地震は、弘化4年(1847)3/24(新暦5/8)午後10時頃発生した、信濃から越後にかけての大地震で、マグニチュード7.4、震度7以上であったと推定されている<sup>1)</sup>。この地震では、多くの家屋倒壊の他に、火災、山崩れ、洪水等の大規模な災害が発生した。

### 3. 稲荷山宿

稲荷山宿は、現在の長野県更埴市に位置する江戸時代に栄えた善光寺街道の宿場町であった。図1は、善光寺地震当時の稲荷山宿の再現を試みたものである。道路や水路等の地形については約10年後の安政5年(1858)に作成された稲荷山村検地絵図<sup>2)</sup>を参考にしている。荒町中町表通り両側(図1奥)の家屋の寸法は、被災家屋の間口によって支払われた灰片付け料(罹災見舞金)を記した松林源之助家文書<sup>3)</sup>に基づいているが、本八日町通り両側(図1手前)の家屋については資料がないため、家屋を参考にして推測したものである。また、家屋の形状については、幕末、明治初期における各地の宿場町をとった写真、風景図、善光寺地震時の絵画等を参考にした。



図1. 善光寺地震当時の稲荷山宿

### 4. 稲荷山宿火災延焼動態図

善光寺地震により、稲荷山宿場でも大半の家屋が倒壊し、市街4ヶ所から火災が発生した。図2の稲荷山宿略図<sup>4)</sup>は、それらの出火場所と延焼範囲を表したものである。松林弥五右衛門が書き残した文書および図2によれば、各火災の出火時刻、鎮火時刻、焼失建物数が断片的に分かるが、情報が完備していないので不明の部分も多い。また延焼に大きな影響がある、当時の気象条件、特に風向、風速などに関する記述も、やむを得ないこととは言え、存在しない。このため、出火点から各方向への延焼速度などを勘案しながら、出火時刻等の欠落した情報を補い、各時刻における火災延焼状況を推定して再現した。図3は、ある時刻における延焼状況の例である。



図2. 稲荷山宿略図<sup>4)</sup>



図3. 善光寺地震による稲荷山宿での火災延焼状況

- 1) 河原綱徳 「虫倉日記」
- 2) 更埴市教育委員会所蔵(更埴市稲荷山)
- 3) 松林源之助家文書 「大地震に付き諸事控え」
- 4) 松林正明家所蔵(更埴市稲荷山); 田中隆雄家所蔵(長野市三輪)
- 5) 更埴市:「更埴市史 第二巻 近世編」 1988.3